

## 9月20日 2回目の一般質問一問一答+まとめ

### リニア問題-1

**質問** 6月の一般質問で提案した工事の全体像の開示についてその後の取り組みは？

**答** 不可能ではない。検討する。

**質問：**6月の一般質問で、リニア新幹線工事全体について、全体像を村民ホールなどで開示することを提案した。その後の取り組みは？

**総務課長：**室長へ指示して進めている。施設の位置関係は当然だが、工事車両の運行ルートを表示できればと考えている。現在、飛島建設のJV担当の壬生沢戸中工区の運行ルートについて地元と調整中。運行ルートが決定したら掲示しようと考えている。要望があれば現状の施設関係図等々を掲示することも不可能ではない。意見を寄せいただければ検討する。

### 要 望

既に6月に提案をした。『リニアができれば』という前に工事がどう進んでいくのかをまず『知る』ということが大事。是非早急にやっていただきたい。

### リニア問題-2

#### 前回の質疑

**質問** 土砂の流出を抑制し、将来にわたって住民が安心して暮らすために、今、どんな方策が必要と考えるか？

**答** 盛土の安定性と地下水の排水設備の2点。JRの機能強化で安全性を承知している。

**質問** 6月の一般質問で『安全性を承知している。』発言の根拠は？

**答** 盛土が崩れない安定率を確保して設計されていると説明を受けている。

村には判断できる技術者がいないので、JR東海の説明により、安全性を認識して、最終的な判断は県、国の専門家を交えた機関で判断して頂く。

それで、改めて安全性を認識するという立場でいる。

**質問：**6月の一般質問で土砂の流出を抑制し将来にわたって住民が安心して暮らすために必要な方策について質問したところ、

『盛土の安定性と地下水の排水設備の2点が大切でJRの機能強化で安全性を承知している』と、総務課長は回答された。

6月に提示されたJRの計画で、総務課長が『安全と承知している』と、発言された根拠は？

総務課長：盛り土の安定性については、『林地開発許可申請の手引き』と国土交通省の『道路土工における盛土工指針』に基づく安定計算を JR 東海が行い、求められた計算結果に基づくと、兵庫県南部地震クラスの震度 7 クラスの地震が起きても盛土が崩れない、安定率が担保されている設計内容であると、JR から説明を受けている。また、盛土内の水位が盛土の高さの 1/2 の水位まで達したような状態で震度 7 クラスの地震が起きて、大雨が降ってさらに大きな地震が起きた場合でも、盛土が崩れない安定率を確保して設計がされているという説明を受けている。地下排水管の増設による強化、維持管理のための縦排水管、点検用のマンホール、地下水排水管用の補助管を設置で、盛土内の水位が高くなることを防ぎ、安全面が確保されているということも、確認している。

加えて、万が一盛土内の水位が下がらない場合には、集水井、また盛土の側面などから水抜きのためのボーリングを行なうなどの安全対策も加えて準備されている、とのことであり、安全面には適切な配慮がされていると、村の方では認識している。

質問：わかりました。

JR からの説明によって、安全だと認識されたということによってよろしいのでしょうか？

総務課長：JR 東海の土木技術担当職員の方で、指針、基準に基づく設計で、村の方でもそれを判断できる技術者がいないので、JR 東海の説明により、安全性を認識して、最終的な判断は県、国の専門家を交えた機関で判断して頂く。

それで、改めて安全性を認識するという立場でいる。

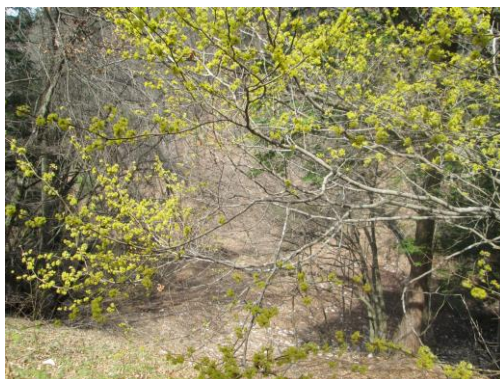
### リニア問題-3

**質問** 本山残土置き場計画について、まだ一般住民も、自由に質問や意見を発言でき、JR から明確な回答を得る機会が繰り返し必要と思うが。

**答** 不明な点は JR 東海に直接連絡できる筈。村の担当に個々に対応させる。

質問：下流域に関わる村民対象の説明会を 6 月の定例会で要望したが、7/25 に従来通りのリニア対策委員会を開催され、村は有線放送などで傍聴を呼びかけたが、傍聴者は説明を受けても発言権がない。また、当日目にした資料で説明を受け、その場で理解することは難しい。委員会の空気は、村の重鎮である区長や役場職員が多数を占めており、その他の対策委員が発言しやすい環境とは言えない。せめて対面式で一般住民も自由に質問や意見を発言できる場で、JR から明確な回答を得る機会が繰り返し必要と思うが。

村長は、残土を本山に置くことは苦渋の決断と再三発言しているが、決断するからには、JR の埋め立て計画の安全性に不安があってはならないと考える。村長は不安を感じられることはないのでしょうか。あるとしたら、どのように取り除かれるとお思いですか？



本山残土置き場の春

村長：リニア対策委員会の運営方法については、現状で適切に機能していると考えている。

自由に発言ができず、JR 東海から明確な回答が得られない旨、不明な点や意見などは、JR 東海へ直接連絡して頂けるよう、飯田工事事務所の電話番号などが開示されている。村のリニア対策室に意見などをお寄せいただければ、個々に対応させる。

JR 東海の造成計画については、安全が担保されており、説明も手順を踏んで適切に行なわれていると、村は考えている。今後は保安林解除に向けての行政手続きにおいて長野県、林野庁の審議会に審査をしていただき、改めて安全面のチェックがかり、(保安林の)解除が許可されれば、安全性についてお墨付きを頂けるものと認識している。

先日の NHK の番組で、村長が『意見のある方は JR や中部電力につながます』と語った。大変結構なことです。

### 本山残土置き場計画について、私の疑問

保水力のある表層に植樹をする、下部は排水性の良い盛土、という盛土自体の二層構造が問題。

次に、今回新たに付加した補助排水管は口径 300 mm で、本管 1000 mm だが、同時に敷設すれば、目詰まりと性能劣化は本管と同じ年月で起こる。補助排水管の役目を果たすのか疑問。また、JR は 30 年を目途に管理するとしているが、管の経年劣化で 30 年後の方が、危険が増す。

次に、他の残土置き場について情報がある。下條村道の駅での谷埋め盛土は、盛土上の利用目的があり、9.3ha、盛土厚 15~25m、盛土量 100 万 $m^3$ 。

中川村半の沢は、高さ 40m、53 万 $m^3$ で上部は県道として管理される。

本山は残土を埋めるための谷埋め盛土で 130 万 $m^3$ 、8.5ha、盛土厚 25~50m という最大のもので、管理のための立ち入り以外、監視の目が行き渡らない。

気象や地震に対する管理基準が明示されていない、ということが問題。様々な施設の追加は、当初から安全と JR が説明した計画が不十分であることの証。地下施設を付加すれば付加するほど、管理負担が増える。盛土量と厚さを固定することで諸問題が発生している。

こうした疑問を単に、JR 東海や中部電力につなぐだけではなく、村も親身になって共に真剣に考えてほしい。それが予算にもあるリニア対策室に対する費用の、情報の共有であり、諸問題への対応ではないか。そのための時間も必要。虻川下流域の皆さんは、虻川の流れの音を毎日毎晩耳にしている。大雨の後の音には大変敏感になる。

### 要 望

村自体は、広域連携の中で (リニア) 推進側であっても、JR 東海の工事日程を最優先ではなく、住民ファーストで。この村は、工事期間だけではなく、この先未来永劫リニア新幹線と対峙して生きていかなくてはならない。生活の基盤である自然環境を守ることを最優先に。

時間をかけて真摯に対応することを重ねて要望する。